

## 20231112 第 36 回セメント生コン・タンクローリー輸送部会

運輸労連は、鹿島セントラルホテル+WEBにて『第 36 回セメント生コン・タンクローリー輸送部会』を開催し、会場に 22 名、WEB にて 13 名が出席、神奈川県連から、8 名(会場 4 名、WEB 4 名)が出席しました。



入倉中央書記次長より、開会あいさつ、世永中央副執行委員長より、代表者あいさつがされました。

世永中央副執行委員長は、2024 年問題に関する影響と今後の展望について、また、2024 春闘の取り組みについて説明がされたのち、座長に小椋(太平洋陸送労働組合：執行委員長)が選出されました。



坂井中央書記長より、各テーマに沿って説明がされ、各組合が抱えている課題や部会の在り方などの意見交換を行いました。

○大型車の高速道路の速度緩和への対応。

○運賃料金をしっかり要求する事が必要ではないか？

標準的な運賃の要請が必要。

○速度問題より割引制度の時間帯の緩和の方が先。

○ローリー車の相互立ち会いについて、危険物の荷卸しルールの無駄な作業が多い。

○事故が起きるとルールが増える。全てを覚えられないので、完璧に 5 つとかに出来ないものか？

○ドライバーの労働条件が悪すぎる。荷卸しは発着荷主で行ってほしい。

○危険物車両が空車のなったときに一般のトラック同様となるのか？

○イエローカードの実際運用と法制化について。

○連続運転 4 時間に 30 分休憩の実態と対応

○勤務間インターバルについての解釈

多岐にわたり意見交換が行われ、終了した。

明日は、丸全昭和運輸株式会社 鹿島タンクターミナル株式会社へ訪問する予定です。

20231113

運輸労連セメント生コン・タンクローリー輸送部会は 13 名にて、丸全昭和運輸株式会社 鹿島ターミナル、鹿島バルクターミナル、鹿島平井倉庫を視察しました。

鹿島ターミナルでは、古屋鹿島支店長、細見部長より、ターミナル内の設備説明と安全対策について説明を受けました。

ここでは、輸送船から降ろされる指定可燃物などを取り扱っており、各品目別にそれぞれ配管がされ 1 品目 1 配管のためコンタミの心配はない。配管には残量物がないよう最後に玉の様なものを入れ、圧を加え配管内には残らない状態にしている。

出荷場所は建屋になっており、転落防止対策もワイヤーを張り対応をしている。

また、ドライバーと作業員 2 人が、積む品物と数量をトリプルチェックしており、ヒューマンエラーは無いなどの詳しい説明を受けながら施設内を見てまわりました。



鹿島バルクターミナルでは、平田所長に施設内の説明をしていただきました。ここでは、石炭の貯蔵をしている。

工業水が無いので、雨水を利用している。石炭を通して出る汚水はろ過し再利用。船からあがる石炭は1隻約 5 万 t。2 箇所約 10 万トンの貯蔵ができる。ダンプでピストン輸送し貯蔵して、発電所へ運搬。平井倉庫では、ウッドペレットを発電所に運搬。発電所の燃料となっている。

今回は、陸上げされた物資がどのような対策がされ運搬されていくのか？我々ドライバーからはよく見えない苦労があり安全対策された中、荷積み直前までを見ることができました。



ご協力いただきました、丸全昭和運輸株式会社労使に感謝申し上げます。

県連書記次長 望月 博巳